

第4回 塩竈市長期総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時 令和8年7月29日（水） 18:30～20:30

場 所 塩竈市役所 3階北側委員会室

出席委員 柳井委員、草間委員、佐々木委員、高橋（か）委員、大学委員、土井委員、大江委員、永野委員、
郷家委員、高橋（栄）委員、大山委員、阿部委員、横内委員
欠席委員 5名

塩 竈 市 副市長、総務部長、市民生活部長、福祉子ども未来部長、産業建設部長、市立病院事務部長、上
下水道部長、教育部長、政策調整管理監

事 務 局 総務部政策課

第4回 塩竈市長期総合計画審議会の概要
1. 開会
2. 会長挨拶
(内容) ・今我々の抱えている課題は老朽化だと思う。学校・病院・役所、お集まりなる皆さまも同様に、様々な場面で老朽化が見られる。この次に来るのは衰退か、あるいは現状をバネに飛び越えて次に行けるかという瀬戸際に私達は立っている。この境地に少しでも良くすることや改良することではなく、抜本的に変えて再定義することを行っていく段階に来ている。 ・皆さんの知恵を拝借してより良い仕事していきたいと思いますので、忌憚のない議論をお願いしたい。
3. 議事
(1) 審議会の振り返り
事務局より資料1に基づいて説明後、質疑応答、意見交換なし
(2) 後期基本計画修正案
事務局より資料2に基づいて説明後、質疑応答、意見交換 (内容) ○分野2福祉では、高齢者と認知症の話が中心であるので、「介護予防とか重度化防止を含めて」や、「高齢者や支援を必要とする人々、またその家族に対して、」など高齢者福祉を高齢者だけではなく、幅広く捉えて、18歳以上から高齢者までの切れ目のない支援として対応してはどうか。 →幅広く、かつシームレスに対応した表現ということだと思うがどうか。 →内容について担当課と協議していく。(事務局) ○道路の表現について、今回の塩竈みなと祭で花火大会の警備に従事していたが、トイレの問題を感じている。一般的な方は問題がないが、高齢者が使用しやすく、またオストメイト対応のトイレが必要になってくるが、周辺だと老番館庁舎とイオンタウン塩釜にしかない。もう少し増やしてもいいのではないかと。高齢者の方への環境整備をお願いしたい。 →今回の計画の内容とは逸れるが、重要な視点である。どう考えるか。 →道路のバリアフリー化も含めた内容について、今回はまとめていたところである。今回のトイレや設備についての意見は、設備更新に合わせて検討していくような形で、担当課と協議をさせていただきたい。(事務局) ○道路の表現について、子どもや高齢者に対する身近な道路への愛着と表現をしていただいた。先程の委員の発言も踏まえて文章中の後半に「バリアフリー化等を含めた」という表現にしてはどうか。 →そのように修正させていただきたい。(事務局)

(3) パブリックコメントの実施

事務局より資料3、別冊に基づいて説明後、質疑応答、意見交換

(内容)

○重要なポイントとしてみんなで描いた100の暮らしが挙げられる。第79回となった塩竈みなと祭について、陸上パレードに参加し気づいた点だが、参加した団体の3分の1が他市町村から出演した団体であった。地元からの参加が少ないと感じ、地元愛が足りないのではないかと感じた。

○子ども会が縮小傾向にあり、三小学区では子ども会が2地区しかないと聞き、現状に非常に驚いている。町内会も同様だが、地域に協力する団体を増やさなくてはいけない。

→シビックプライドの醸成として、小学生、中学生の頃からよしのしおがまを学び、踊ることで、その経験が大人になって、地域の中で生きてくるといったことを考え、かつての先輩方が始めた経過と受け止めている。現状、保護者の考え方や働き方の変化など、社会環境の変化が要因と考えられる。子ども会や町内会が無くなってしまうと、行政も従来から地域組織があることを前提としているため、ご指摘の通り、今後のあり方や地域組織の維持について考えなくてはいけない。有識者と委員の皆様から様々な事例をお聞きできているので、改めてどういった取組ができるか、単発でなく、連携して何ができるかを考えていく必要がある。(事務局)

→熊本での地震があったように、緊急時における町内会の防災力は大きな力がある。地域組織のあり方も含めて、再定義を始めてほしい。

○塩竈みなと祭について、今回は例年と比べて結構な人数が来ており、観客が多かったと聞いている。推計で11万4千人から11万5千人程度が集まったようだ。今回SNSでの配信を見ると、もう1週間過ぎているが、多くの動画が挙がっており、コメントを見てみると「小さい頃、住んでいたが、改めて大きくなってからこういう活気ある街、姿を見ると、住みたくなる」、「また戻りたくなります」、「帰りたくなる」というようなコメントが多く出ていた。

ただ、河北新報で県内の「住み心地ランキング」を掲載していたが塩竈市は入っていなかった。富谷市、利府町、多賀城市などが入っており、どうしても若者は賑やかなところに目が行く。物価・家賃の分野で塩竈市が掲載されていたが、交通の便が良いということが要因であると思う。先程も説明した賑やかさに関して、神社や離島などPR方法を考えていただきたい。

→SNSによる反響を感じている。住みやすさについては、地価の関係などがあると考えられ、交通体系も含めて、本計画の中でも引き続き推進していきたいと考えている。(事務局)

○去年から比べると、塩竈みなと祭の供奉船の数が少なくなっている。原因を聞いたところ、知床での遊覧船事故以来、船の安全対策が厳しくなったと聞いている。浦戸では、現在持っている免許では運航できないとして、今年は出られなかったことがあった。今後も減っていくのではないかと考えている。

○浦戸で問題になっているのは、医療関係と買い物関係である。島民は、自分で動けるうちは浦戸で生活したい。息子や娘に迷惑をかけることなく、畑を耕しながら生活したいというのが高齢となった島民の希望である。そうすると、買い物支援や医療関係が問題になってくる。緊急時には救急艇があるが、いざ急病人が出ると、来るまで1時間近くかかる。改善が見込めないと、不安で生活できなくなる可能性がある。

→買い物関係については皆さんで集まっての取組をされていると聞いているので、そういった部分を充実できればいいと考えており、今後も、皆さんと協議しながら進めていければと考えている。医療については、診療所を島に週1回開設しているが、十分ではないとも受け止めているものの、現状についてはご理解いただきたい。(事務局)

○タッチプールを浦戸で実施している。市内の子どもたちが浦戸を訪れて、プールに魚などを泳がせて、それを子どもたちが触る。小中学校の子どもたちに結構人気があり、こちらの方は継続して実施しようと考えている。

○塩竈みなと祭について、その始まりは戦後の復興として、塩竈市を盛り上げていこうということで始まった。先程出たお供の船の減少だけでなく、祭りに参加した私達が海上渡航の際に、乗船にしていた船についても、足りないということで、私達氏子 90 人は、魚市場で待機するという流れとなった。

海上保安庁からの指導も、厳しくなってきた、船が出せない状況があったことを聞いていたが、それ以外にもよく聞くのが、船を出す際に出ていた塩竈市から出る補助金や助成金が足りないという意見である。日本三大船祭りの 1 つでもあり、神社の催事である塩竈みなと祭のために参加していると思うので、補助金どうこうは違うと思うが、実際問題、その補助金が足らずに、参加を取りやめるという方がいるようなので、補助金額を見直して、参加するお供の船を増やしていけたらいいのではないかな。

→供奉船となる遊漁船にお渡しするお金は、謝礼として実費相当に当たるものを渡すことが、これまでの流れとなっている。ただし、燃料費が高騰しており、遊漁船を出すコストはほとんどが燃料費となっているなかで、謝礼の金額では厳しいという声を頂いているのも事実である。

現在、総括を行っており、来年は節目の 80 周年を迎えることになるので、来年に向けた部分も総括の中で検討していきたいと考えている。なお、先程具体的に神輿の担ぎ手が海上渡御に参加できなくなかったという部分につきましては、委員の発言にあった免許・資格の問題もあるが、市営汽船が 3 艘から 2 艘体制での運行となったことから、塩竈みなと祭に提供することができなくなったという経過があるので、ご承知おきいただきたい。(事務局)

→次回の塩竈みなと祭は、80 回の節目となるので盛大に盛り上げていただけると助かる。

○健康の分野 2 ですが、日本全体で医療費に多くお金が掛かっている現状をお聞きしている。発病に至らないうちに予防に力を入れる対策を行う中で、市町村で健診を受けた方にインセンティブをつけ、受診率を向上させるという取り組みの実施事例を聞く。

予算は掛かるが、一方で、健診で病気が見つかった場合、1 人当たり掛かる費用を比べると、その後、財政負担を抑えることにつながることから、予防という部分に目を向けてもらいたい。

→健診については、受診率の向上に向けて、インセンティブだけではなくて、市民の意識や認識が上がるのが 1 番大事である。確かに生活習慣病に関して、糖尿病の進行が進むと、1 人あたり年間 500 万かかるような話もあるため、非常に重要な観点であると考えている。(事務局)

○全体にあてはまる話かもしれないが、先程、子ども会や町内会のお祭りについて話があった。自身も少し前には子ども会に所属し、現在は、お祭りの手伝いに参加している。参加して感じるのは、今まで主力であった高齢の方と参加する若い方にあるギャップで、色々な団体を見ていると、集合・解散時間や年間のスケジュールなど、はっきりしない部分があり、若い方々が参加しづらく、かつ、参加に係る費用負担などがわからないことがある。

昔はコミュニケーションがよく取れたうえて、運営していたため、それでよかったと思うが、外から入ろうと思うと、そこがネックになってしまい、関わりづらさを感じてしまう。対策として、団体がホームページの活用やメールでの周知など、情報化に取り組むための支援があるといいと考えている。

→子ども会と高齢者との関わりの話が出たが、先程の子ども会が少なくなってきた話だけではなく、実は高齢者に関しても、所属する団体数が徐々に減少してきている。また、非常に寂しいことではあるが、団体がなかなか育たず、高齢化をしている面もある。

福祉的な観点でも、子どもと高齢者、あるいは、地元で活躍する方を繋げられるような関わりに力を入れていければと考えている。(事務局)

→世代間を越えたコミュニケーションは難しくなっている。大学の同窓会等でも老人が若者を取り

囲んで、若者の話を聞かない。そうすると怖がって次から来なくなってしまう。そのあたりも含めて、世代間交流のあり方を考える時期に来ていると思う。

○塩竈みなと祭の件で、SNS では前夜祭の花火大会だけでなく、本祭も大変反響があると感じた。今年、御座船のラストランに注目が集まったこともあり、来年も新しい御座船の話題ができると思うが、現在の御座船のその後はどうなるか。

→既存の御座船の活用について、関係者と協議中ではあるが、基本的には廃船の方針である。ただし、来年7月までに新しい御座船が完成し、お披露目するので、関係者の中には新旧の御座船を、広くご覧いただく工夫はできないかとアイデアはいただいております、廃船の方針を取りつつも、事務局と関係者で協議を行っていく。(事務局)

○活用の提案となるが、北浜緑地公園などで御座船の展示を行い、船内を見学できるような観光スポットとしてはどうか。船は老朽化しているため、数年の使用かもしれないが検討していただきたい。

→提案頂いた北浜緑地公園内に展示するといったアイデアなども関係者から出ている。

このような展示に関しては、場所の許可や船の安全性が前提となり、不特定多数の方々に触れていただくことが可能な状態かどうかの確認などが必要であり、頂いたご意見も含めて、今後検討したい。(事務局)

○町内会の防災指導員の高齢化もあり、他市町村では防災士資格取得支援の事例もあるが、塩竈市の方ではそういったことが現在ない。今後、そういった防災に関する知識や資格を持った方を育てるためにも、資格取得などにさらに力を入れる検討をしていただけたら嬉しい。

→塩竈市では、宮城県で進めている「みやぎ防災指導員」という資格取得を各自主防災組織の皆様に促している。防災指導員の資格を、ただ取るだけではなく、その後のフォローアップということで、避難所の運営の研修などを年に数回行っていると確認している。防災士の資格につきましては、現在、本市が支援している防災指導員の講習、研修を行なう講師の方が防災士であり、指導していただいている状況もありますので、今回のご意見を踏まえ、担当課にお伝えしたい。(事務局)

→震災が起きた時、先頭に立っていた人たちが、15 年経過した今、年を取って動けなくなり、記録と計画だけが残っている。次に発災した場合、担い手がいないという話がでてしまう。防災士の資格を持った若者が地域で大事な役割を果たしますので、気にすることが大事だと思う。

○経済成長期の 1960 年代に建てた建物の更新期に入るということで、市役所も同じであるが、全国の経済成長期に作った市場や建物が全て老朽化で対応が必要な状況となり、ここから 5 年、10 年が大事な時期に入ってくる。

○水産業を取り巻く環境は、非常に目まぐるしく変化し、海の環境も変わっている。10 年前まで本マグロが絶滅危惧種と言われ、漁獲制限が設けられる状況にあったが、今はもう取れすぎて制限の枠を拡大する状況になっている。先日、来年の本マグロの漁獲量を 25 パーセント増やすという話もあったが、結局メキシコが反対して、否決になった。本マグロが取れるからどんどん売っていこうということもなかなか難しい。塩竈市の市場は、マグロだけでやっていけるのかということを、今後考えていかなければいけない。

一方で、本マグロが取れず、個体数が増えた結果、餌となる小魚が本マグロに食べられ、小魚の漁獲量が減っている。今年、黒潮の蛇行が収まって、三陸の海水温も落ち着き、ようやく海藻類の状況が好転し出したなか、別の問題が出始めるなど、目まぐるしく状況が変わる中で、この水産業は 5 年、10 年で次の手を打たないと難しい局面に入っていると感じている。

→今後の水産のあり方、それから観光をどう産業に紐付けていくのが、我々の課題である。今年に入っ

てから、行政と卸売機関で連携し、関係組織の方と定期的にランチミーティングをしている。テーマは、水揚げ市場を含め、背後の加工団地を今後どのようにしていくのか。元々輸入原料に頼って加工をしていたところであり、マグロに特化した状況の中で、この市場をどう利活用し、地場産業である背後の加工団地とどう連携して進めていくのかを、それぞれの業界の方々と行政が一緒になって、話し合いを進めている。(事務局)

○観光業については、たくさんの賑やかなイベントがある中で、産業に紐づいてないものが多いと感じる。観光は産業の1つとして、きちんとお金が動いて、地域経済を活性化し、事業者が集まることで、賑わいが生まれていくということが健全だと思っている。きちんと産業と結びつく観光のあり方を、もう一度作り直さなくてはいけない。今までやってきたことにフォーカスして、人を集めるだけではなく、それによって新たな産業が生まれ、商売をする人たちが集まってきて、お金が回るような仕組みを作っていないと今後の持続が難しくなると非常に感じており、これから我々事業者として観光産業を行う中で、後期基本計画の大事な5年間になっていくと改めて感じている。

→観光産業に紐づく部分は、昨年度末に第2期の観光戦略ビジョンを取りまとめており、その中でご意見を頂いた内容が明記されている。

具体的には、市内商工業者、関係団体などから、将来的にDMO、DMCまでの立ち上げを望む声が大きくなっていることから、行政も何かしら関わる必要があると考えているところである。委員の発言にあったように、表現が適切かはわからないが、観光を産業に昇華させる形で、地域の賑わいや経済の活性化を促進できればと思っている。(事務局)

→BtoBは形が定まっており、今の塩竈市の漁業は為替に左右される問題があり、多様化していく中で、BtoBを強化していくというのは1つあると思う。

もう1つはBtoCですが、塩竈市には最低1万円以上持っていないと食べるものがないということがある。そうすると、行っても食べるものがないとなってしまう、若い人は絶対行かない。ほかの観光地では、マグロの肉まんや漁師が食べる定食など、価格帯に広がりがあり、高級なものを食べる人たちを横目に見ながら、お金を稼げるようになったらあれを食べるんだという仕組み作りをしている。塩竈市は観光客を引きつける力はあるが、高価格帯の客しか相手にしないという印象が強い。

ミシュランのガイドブックを見ればわかるが、飲食店における一定評価以上の店舗数は、東北で一番だと思う。つまり、美味しい、腕のいい料理人は揃っていて、仙台にも負けない。このアドバンテージを伸ばしていくと、食を軸に展開ができる。そのような料理人が14、5人いる場所であるため、BtoCに力を入れてほしい。さらに、BtoCの1番いいところは、市内で買い物をするため、経済効果が大きいことがある。BtoBは儲かると別の地域でも投資する可能性があり、有効需要で見ると、BtoCは大事で、戦略的に育てていくということが大切である。

○私もお祭りには毎回袴を着て参列しているが、今年は表坂下からマリングートまでの数十分間、本当に暑く、持たないのではないかなと思うぐらい暑かった。子どもたちのパレードが中止だったのは正解だったという感想である。

○町内会の夏祭りについて、130世帯ほどの町内会に住んでいるが、かつては夏祭りが盛んに行われていたが、14、5年前から途絶えていた。3年前から、仲間内でもう1回やろうと声掛けがあり、小学生以下の子どもは、かき氷を無料でプレゼントしようと決めた。町内会は130世帯なので、小学生以下はせいぜい20人ぐらいと考えていたが、70人ほどが来た。今年は町内域に消防士がおり、彼を責任者として、盛大に花火大会をやろうとなった。子どもが喜ぶような町内会の夏祭りにしたいということで、今計画をしているところである。

○母親が浦戸出身であるため、浦戸について詳しくなったが、市内の子どもたちが浦戸について知る機会がないのではないかと感じている。ハードルが高いことは承知の上で、小学校の高学年か中学生の1年生ぐらいの間に、ぜひとも浦戸4島を巡るような体験ができると良いと思う。

→浦戸諸島は東日本で島を見ながら周遊できる唯一の場所である。そのアドバンテージをなぜ生かさないのかと感じている。外国人、特にドイツの友人を連れてくると、箱庭のようだと感動していた。浦戸の研究を別の切り口でやってみたらいい。島の暮らしが見えづらく、隠された生活になっているので、島の豊かさが見えるような発信の仕方は工夫すべきだと思う。

→小学校中学年に浦戸に行く取り組みをしていて、全ての小学校で実施している。そういった中で、先程お話のあったタッチプールなどを島民の方が企画をし、島の暮らしや魚に触れる体験などの活動を始めている。こういった活動を経て、体験した生徒が島に関わることに繋がっていけばよいと考えている。(事務局)

○こころの健康づくりに関して、前回も8050問題の話をしたが、今回は実際に体験したお話したい。塩竈みなと祭の次の日、包括支援センターに電話があり、町内会の方から、ある住宅の電気がつけっぱなしで、ハエが飛んでいると連絡が来た。その家は、高齢者の親と息子さんが住んでおり、親御さんは以前包括で担当していたが、1年半前に亡くなったので、おそらく息子さんだったと思うと当時の担当から話があった。暑さの続く日ということもあり、何か起きているということで、すぐ警察と確認したが、結果的には亡くなっていた。もともと持病があり、母親の介護のために、仕事を退職していたという話だった。

○もう1点、90代の父親と80代の母親で、母親は持病があり、住環境などの問題から、なかなかお風呂に入れないとのことであった。その家には、働いたことのない50代の息子がおり、訪問しても人の気配は感じるが、声にも応じず、ご両親も合わせようとしなかった。そのご両親も高齢で、自分たちが亡くなった後、息子が心配だという話をするので、生活困窮者自立相談支援センター等からも連絡を取っているが進展がない。このような支援に結びつかない、もしくは、受診にも結びつかないという話を前回したと思うが、対応に時間がとてもかかって、現状を維持している状態の事例が増えるという心配が現実的に起きている。今の時代にこんな話があるのだろうかと思うが、実際、市内でもある話で、食べ物がないという相談もある。明るい話の裏側で誰も取り残さない社会であってほしいと思いと支援の仕組みの弱さを実感している。介護保険や障害福祉は、制度的に確立されているが、そこに引っかからない人もいる。アウトリーチなどが検討できればよいのではないかと考えている。

→これは日本人の問題になってくるが、対策をしてもこぼれ落ちる人が必ずおり、これから先も増えていく。この点について何か考えはあるか。

→8050問題や、先程話題に上がったような孤独死については、今後さらに増加していくと考えている。人口のボリュームゾーンが65歳以上になるにつれて、これらの問題はより深刻化していき、特に、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となることで、要介護者の増加は非常に大きな課題と捉えている。併せて、高齢者の一人暮らしが8割ほどを占めている現状があり、家族と同居、または、自身で体を動かせるうちは良いが、そうでない場合、ひきこもりや、食事・排泄といった日常生活上の深刻な問題が生じてくるものと考えている。

当然ながら、行政の「公助」だけでこれらをすべてカバーすることは不可能であり、地域包括支援センターが担う役割は非常に大きくなっていますが、同センターの支援だけでも同じく限界がある。地域との繋がりが希薄化し、各家庭が抱える困難が見えにくくなっていることが、現代の大きな社会問題であり、行政、地域包括支援センター、町内会、民生委員などが連携し、いかに地域住民と関わっていくかが重要であると考えている。一方で、支援のために訪問しても「来てもらっては困る」と拒否されるケースもあり、個人の権利の尊重と、実際の介入・支援とのバランスが非常に難しいと感じている。(事務局)

- 子育て世代支援の充実に向けて、保育士などの担い手不足がこの制度の穴ではないかと考えている。制度はいいものだが、全国で保育士の人手不足、こども家庭センターの一体的な相談を行うための保健師さんやソーシャルワーカーの不足が問題となっている。一方で、ソーシャルワーカーは勤務時間内でも時間に融通が利く。このような勤務形態も含めて、改善を行っても良いと思う。
- 人手不足は子育て支援に限らず、福祉分野で非常に進んでいる。多様な子どもに関する話、あるいは高齢者、障害者に関する話など課題が多く、先程のソーシャルワーカーの活用は、ぜひ、紹介いただきたい。（事務局）
- 病児保育について、当日に思い立ってすぐ使えるものではない。利用者は病児保育の利用のために、事前の登録が必要と言われても、いつ子どもが風邪を引くかわからない。そこに担い手不足の問題が出てくる。八方塞がりではあるが、この課題もどう解決していくか、制度を進めていく上で問題だと感じている。
- こども誰でも通園制度は親にはありがたいが、現場は大きな不安のなかにいる。子供の特性やアレルギーなどを把握できない状態で受け入れして、何かあった場合の対応についてどうするのかなど様々な問題がある。ヒヤリ・ハットのリスクをどうするのか、問題を抱えながらの制度なので、働く方々の怖さや問題解決をどうするか、もう少し議論を進めていかななくてはいけないと思う。
- 大企業と中小企業で、ワーク・ライフ・バランスの温度差があると感じており、ある企業では残業チケット制という仕組みを取り入れていて、7枚しか使えないため、7回しか残業ができない。また、その7枚を使うのも、上司が明確な理由と認めるものしかできないといった取り組みが紹介されていた。
- 企業の規模で温度感に差がある。障害を持つ方に関する合理的支援、事業所の義務化ばかりであり、ぜひこうした働きかけをして、行政の機関あるいは市民の方だけじゃなく、事業所にまでしっかり周知してもらいながら、隅々まで行き渡るような社会になることを目指してもらいたい。
- 塩竈市は釣りが有名であることを知人から聞いたが、海釣り好きの人が多く来ているそうで、環境があまり整っていないが、知っている人はみな知っているという話をしていた。もったいないと感じ、他の市町村では、海釣り公園のような施設を作って、有料化しているところもある。施設を市などで運営すると採算面で課題が生じるが、赤字にはならず、経済効果が見込めるとのことであった。地域にお金も落としていく経済効果は大きいようで、環境整備を行い、トイレなどを整理しておく、パトロールしてくれる人とかが増えたり、互いに声をかけあったりと、子どもも安心して釣りができる環境になったという声もあるそうで、アプリでの支払い管理などもあることから、釣り人を誘致して観光に繋げていくのもいいのではないかと。
- ご指摘の通り、本市の遊漁船はかなり有名です。今回頂いたご提案は岸壁からの釣りであり、制度上、岸壁の管理は宮城県が行っており、市が管理している岸壁は浦戸の一部であるため、管理者である宮城県にも情報提供させていただき、有料化も含めて考えていきたい。（事務局）
- 初めから「海と社に育まれる楽しい塩竈」というコンセプトがあって計画を作ったのではなく、この計画を作りながらこのコンセプトも作っていった。そういう意味では最初の5年間、そしてこれからの5年間で「楽しい塩竈」というものに、どういうつなげていくのかがポイントになる。
- 各委員の皆様から、かなり厳しい視点でのご意見があったと思いますが、それは皆さんが、街に誇りがあり、市を何とかしたい。あるいは、住みよさランキングで違った指標であれば、多分、塩竈市が1位じゃないかと皆さんが思っている。その意味では、多くのご意見が出たなかで、視点を広げて、計画として、どうすれば楽しくなるかということをお伝えする必要があると思う。総合計画を作るときに、分野

を1から8まで分けた経過があり、分野4産業では「儲かる」ことが「楽しく」なるキーワードであり、福祉や子どもの分野では、儲かっても「楽しく」はならない。そういった意味では、この分野1から8のそれぞれに、どうすれば楽しくなるのか、そのためにどういうことをやればいいのかの優先順位をつけて、計画として進めていくことが大事なことだと思う。

一方で、「楽しい」というのは大事だが、ざっくばらんとしている。それをすり合わせるために、今後指標を作っていく。指標と基準値と目標値があって、SDGsのローカル指標があるが、最近世の中で言わなくなってきて、SDGsとかは機能しなくなっている。今回の計画では、無理だと思うので、次回以降、市民の皆さんがどうすれば楽しく感じるのかというような独自の指標を設定して、生活の中で入れていくなど、どう楽しみに変換していくかが政策としては最大のポイントになってくる。

○県内を比較しても、パワーのある事業者が多いと感じており、そういった方々が具体的に色々とやっていることをまとめて、どうすれば楽しくなっていけるかを前提としながら、楽しくなるにはどれから順番にやっていけばいいのかを押さえていく必要がある。今日、委員の皆様が本気で意見を言っており、聞いて終わりではなく答えることも、本気で対応してもらいたい。

○塩竈市で学生サークルが活動しており、普段は浦戸で活動するが、活動資金が足りないということで、塩竈みなと祭で稼いだという話を聞いた。学生たちもお金がなくても、じゃあ稼げばいいという発想でやれている。全国の自治体はどこもお金がなく、人もいないというなかで、今回、学生から改めて学んだ部分があり、稼ぐという基本部分にもう1回立ち戻っていくと、塩竈市の最大の根幹になると思う。今年も浦戸で学生たちが活動し、浦戸に人が集まってくるようなムーブメントを作っていくので、私も今後もできる限り努力していきたいと思っている。

○印象としては、皆さんと共に立ち上げたこの計画を職員が形にして、それで進めているとおり、これは非常にとてもいい点だなと率直に感じている。計画を作ってそのままということはあるが、本当に誠実にやっていると感じる。パブコメについて、今、国の方では、地方創生に関する国の会議では、関係人口の拡大をうたっている。定住人口が増えない中、その関係を持ってくれる人たちを増やそうと動いているので、塩竈市に関心のある方にも意見をもらえたら。それがファンの獲得、応援したいに繋がってくるのではないかと感じた。

○厚生労働省の審議会では、10年前、5年前は8050問題という言葉を使っていたが、時間が経ち、今は90・60、将来は100・70という時代に移ってきている。先程の話にもあったアウトリーチしていくための仕掛けが非常に必要になってくる。地域包括支援センターと子ども家庭センターも既存としてあるので、現状の認識を改める必要がある。

○施策について、力を入れる部分として門前町活性化事業は非常に良い計画であり、別の会議の資料を確認したが、あれが動き出すと、市民が街の変化を実感できる事業になり得ると感じている。長いスパンで考えているようだがスピードアップを図り、できるだけ速度を上げた方がいいのではないかと感じている。

○4つの実感プロジェクトの達成度でよろこびと賑わいの部分が低い。達成度を上げていくためにはPDCAサイクルの強化が必要になる。なかなか難しいと思うが、主観的な要素もあるため、ここはPDCAサイクルのテコ入れが必要になるという感じがした。

○浦戸振興の達成率が非常に低い。これは難しい案件と承知しているが、地域おこし協力隊あるいは外部の方、いろんな力を結集してなんとか浦戸を振興していくために、テコ入れが必要かなと感じた。

○どの自治体でも、都会であっても共通のテーマになるが、地域交通、地域公共交通の体系をどうしていくか。今後、バスをどう回していくか。塩竈市は小さく、周囲4キロメートルで、非常に小さい街なので、他の自治体よりも色々政策がやりやすい、あるいは、届きやすいというアドバンテージがある。地域公共交通に関しても、高齢化が進んでいる今、大きな課題として進めていく必要がある。

○全体としては本当に進行管理をしてやっている。PDCA サイクルについては、民間企業では作られたら終わりではなく、スピードを上げる。おそらく実施計画が1番現場に近い計画となる。PDCA サイクルの回転率を上げて、日々チェックしながら修正していく。その後に、審議会等でチェックできるような仕組み化を検討いただきたい。

○本日お祭りの話が多く出たが、来年80回ということで、フランスのマルセイユの花火大会に行ったことある。日本の方が花火は美しいが、フランスでは花火をあげた際に出る煙にレーザーを当てて、幻想的な空間を作り、その中でフランスの歴史を教える仕組みがある。

塩竈市は歴史のある町なので、ぜひそのような工夫を花火大会の時にに行い、塩竈市の歴史が感じられるような、あるいは、神社やいろいろな偉人などの紹介など演出もできるのではないかな。浦戸についても工夫の仕方がある。ぜひ切り口を変えて最適化していくと、知恵がいっぱい出てくる。まだまだ可能性あると思いますので、頑張っていきましょう。

○若者だけでなく、中高年以上の方々が中心となっても、楽しい地域づくりは十分に可能で、日々の生活を第一に考えたまちづくりを進めれば、そこは老後に住みたい街になるだけでなく、安定した環境を重視するファミリー層にも選ばれる街へと変わっていく。

海外の先進的な環境都市を視察すると、市民が自分たちの街に強いプライドを持っている。独自の理念を掲げることで、そうした環境や価値観に敏感な人々が自然と集まってくるため、さらに質の高いまちづくりが可能になっている。

私達の街も同じであり、世間的な「地域ランキング」に入るかどうかはさほど重要ではなく、私達自身の地域の価値観を再定義し、独自の魅力を持った街として、共にこの時代を勝ち抜いていきましょう。

4. 閉会